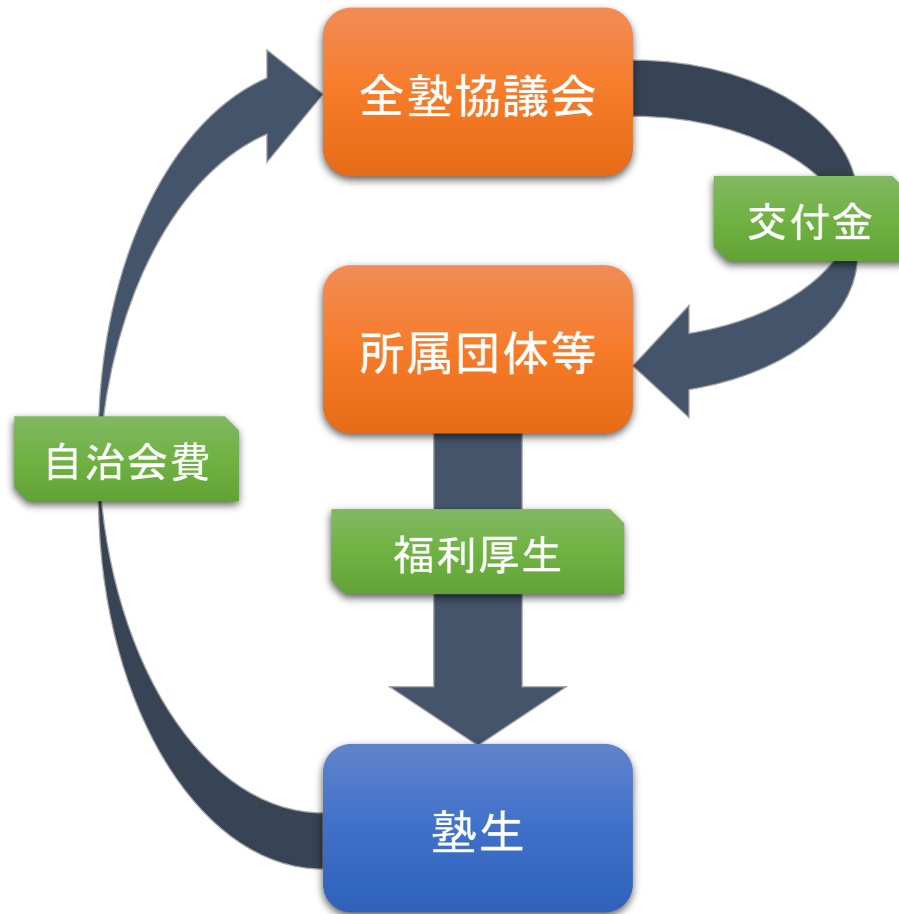


全塾協議会リーダーズキャンプ 2019年 自治会費交付金配分報告

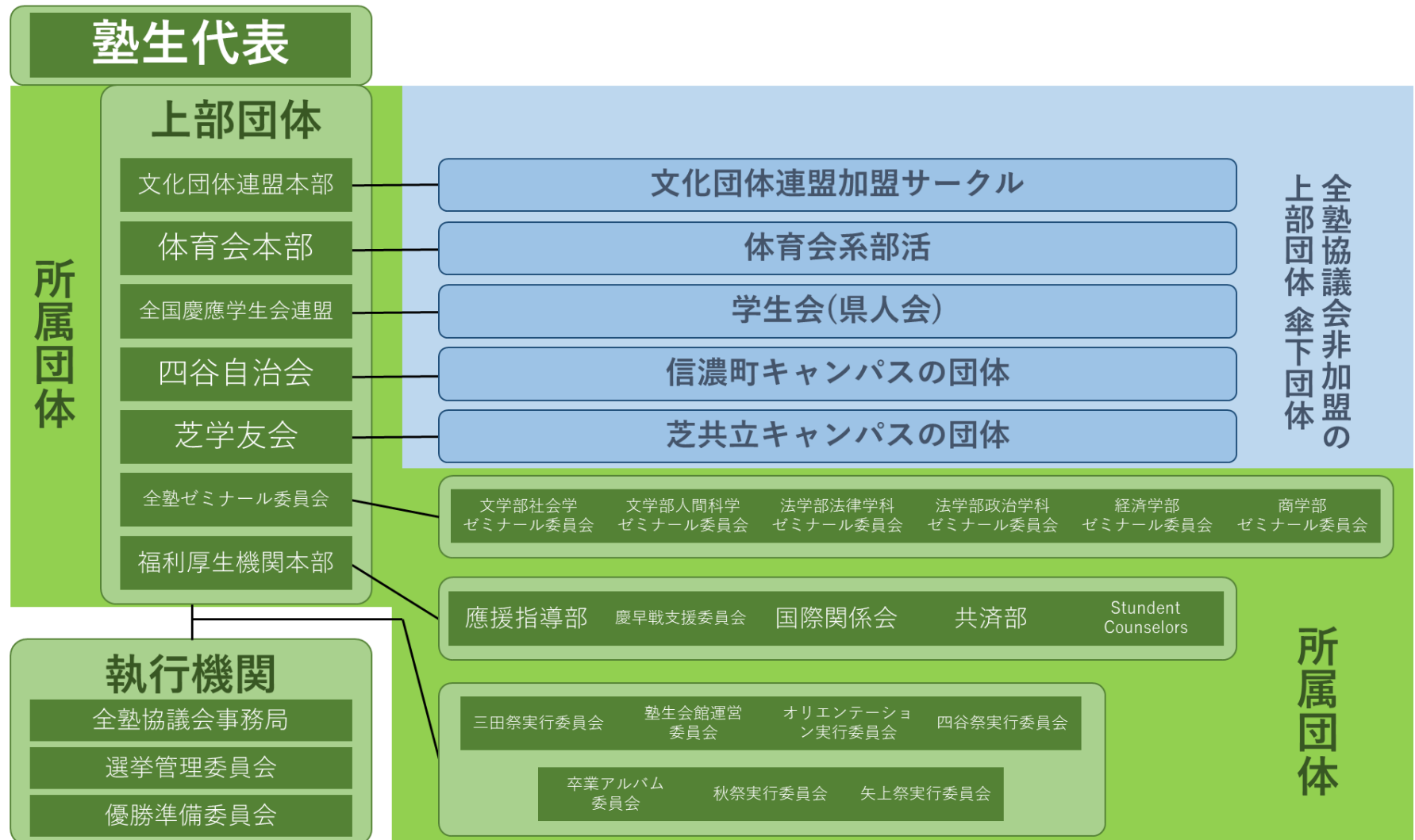
慶應義塾大学塾生代表 前田じん

全塾協議会のお金の流れ

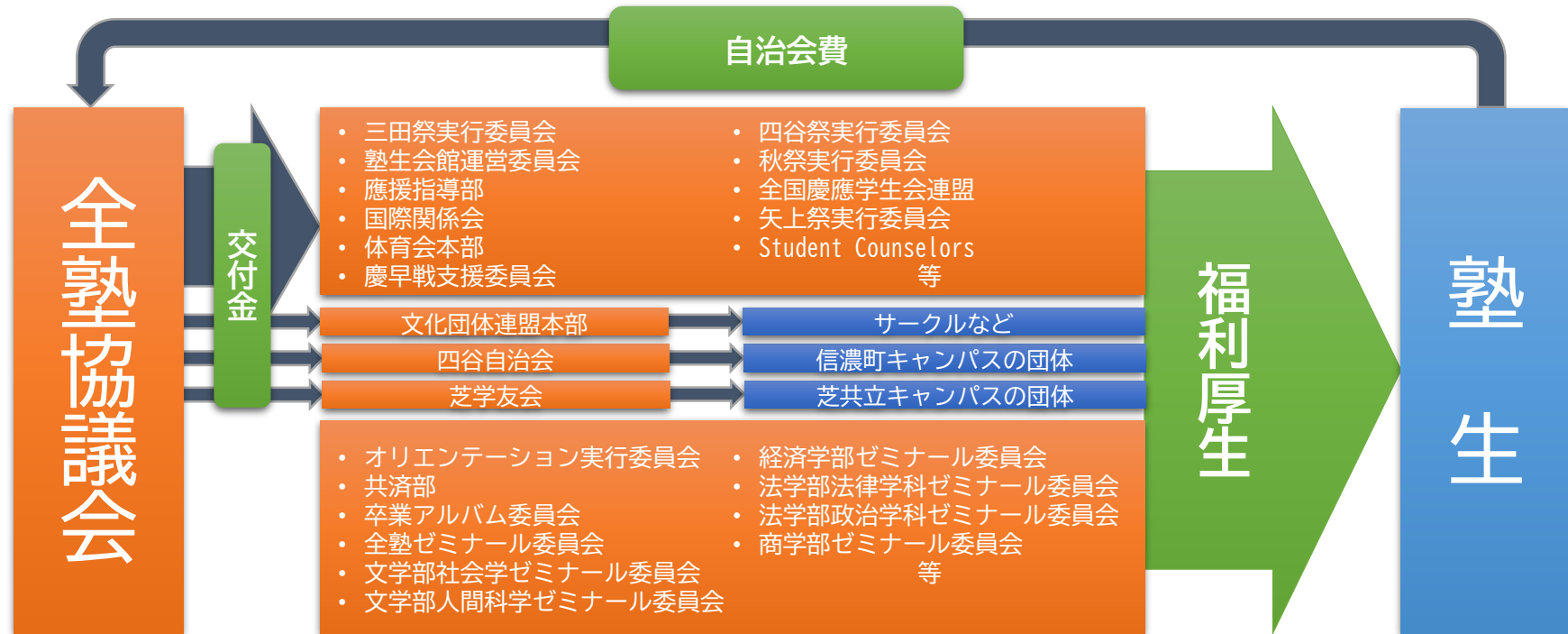


慶應義塾大学では、全塾生（学部正規生）に一人750円を自治会費として協力して納めて頂いています。この総額は約2000万円となっており、これを塾生生活に大きく関係する団体に分配し、その活動を通して塾生の福利厚生に還元しています。

全塾協議会の組織



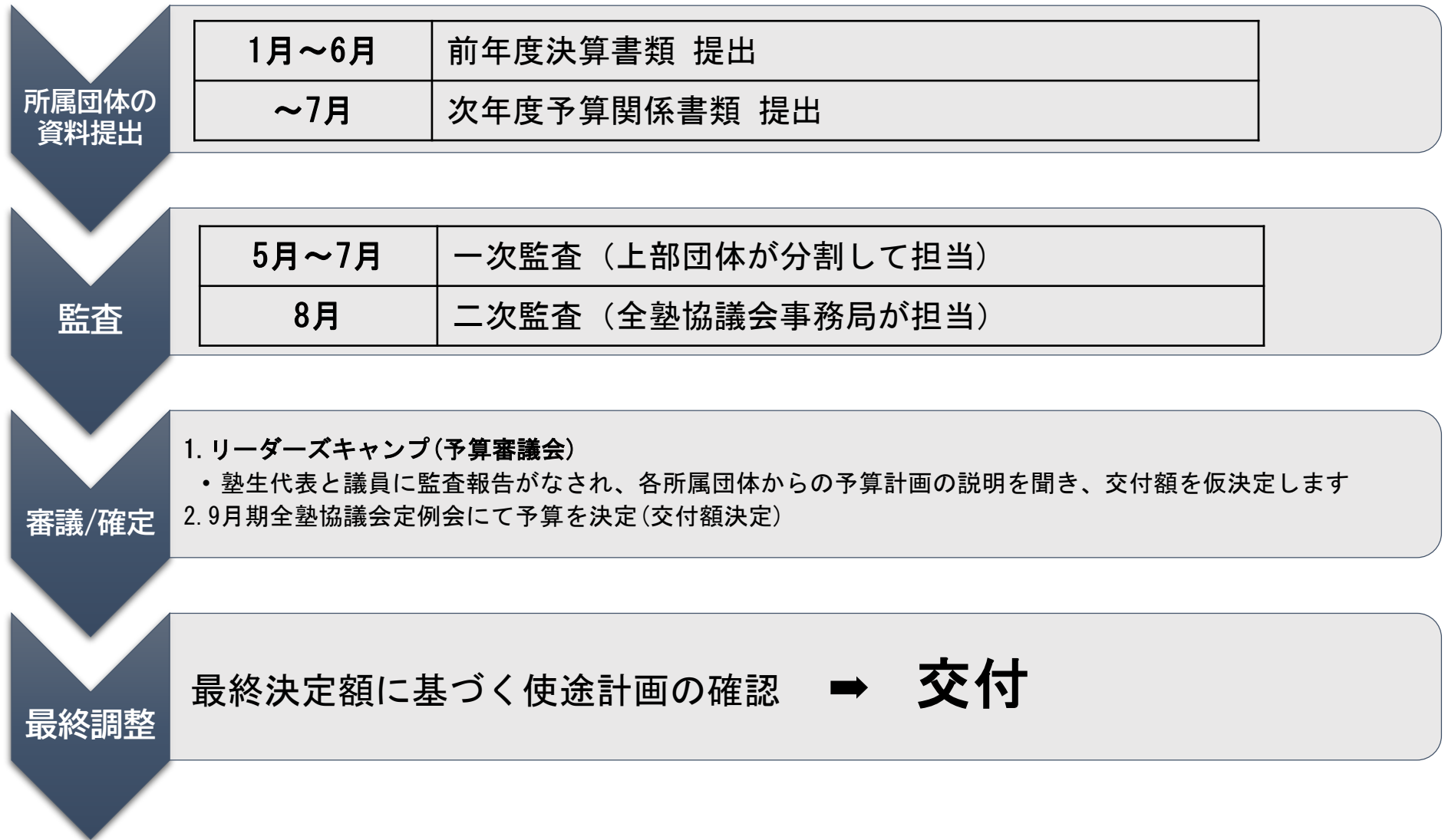
自治会費の主な分配先



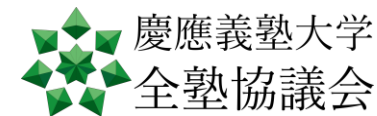
自治会費交付金の大部分は、多数の塾生がに関わるために比較的公共性が高い団体である、全塾協議会所属団体に交付されています。他の一部は所属団体を通して、サークル等に分配されます。

所属団体は、団体で自ら集めた独自財源のみで運営している団体や、交付金と独自財源を併用して運営している団体が多数です。

自治会費交付金の交付までの大まかな手順



2019年度決定 全塾協議会交付金額



団体名	傘下団体	交付金額
全塾協議会事務局		360000
全国慶應学生会連盟		400000
全塾ゼミナール委員会		0
	文学部社会科学 ゼミナール委員会	0
	文学部人間科学 ゼミナール委員会	0
	経済学部 ゼミナール委員会	0
	法学部法律学科 ゼミナール委員会	0
	法学部政治学科 ゼミナール委員会	0
	商学部 ゼミナール委員会	0
体育会本部		2046500
文化団体連盟		保留(後述参照)
四谷自治会		750000
芝学友会		2400000

団体名	傘下団体	交付金額
福利厚生機関本部	應援指導部	3805000
	共済部	0
	慶早戦支援委員会	370000
	国際関係会	1250000
	Student Counselors	35000
オリエンテーション 実行委員会		0
塾生会館運営委員会		90000
卒業アルバム 実行委員会		0
三田祭実行委員会		1961000
矢上祭実行委員会		1600000
四谷祭実行委員会		1100000
秋祭実行委員会		800000
選挙管理委員会		1000000
優勝準備委員会		800000

2019年度決定 交付額

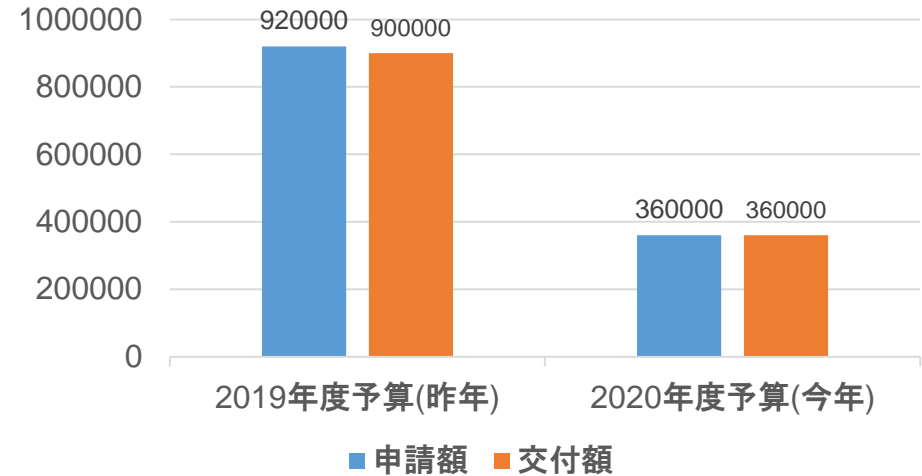
360000円
(-540000円)

満額
交付

昨年より
減少

2019年申請額
360000円

交付額推移



塾生代表所感

360000円の申請額に対し、360000円の満額交付とした。
提出された決算書類は丁寧なものであり、財務体制が健全だと判断した。
資金の節約もできており、交付金の使途も明確であると判断した。
申請額が昨年に比べて540000円の減額となった理由は、繰越金の余剰整理のためである。

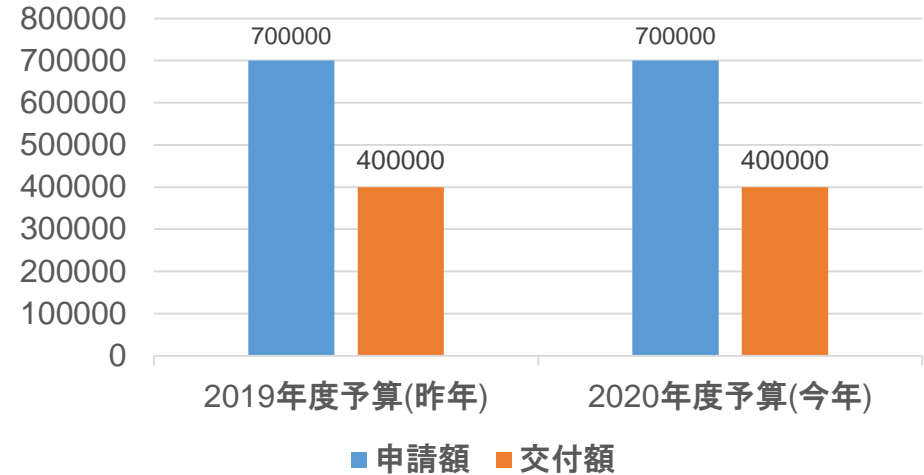
2019年度決定 交付額

400000円
(±0円)

昨年と
変わらず

2019年申請額
700000円

交付額推移



塾生代表所感

700000円の申請額に対し、昨年と同様400000円の交付とした。
活動内容は明確であり、公益性の高いものであると判断した。
交付金会計の繰越金が多かったため、昨年同様の300000円減額することをご理解いただいた。

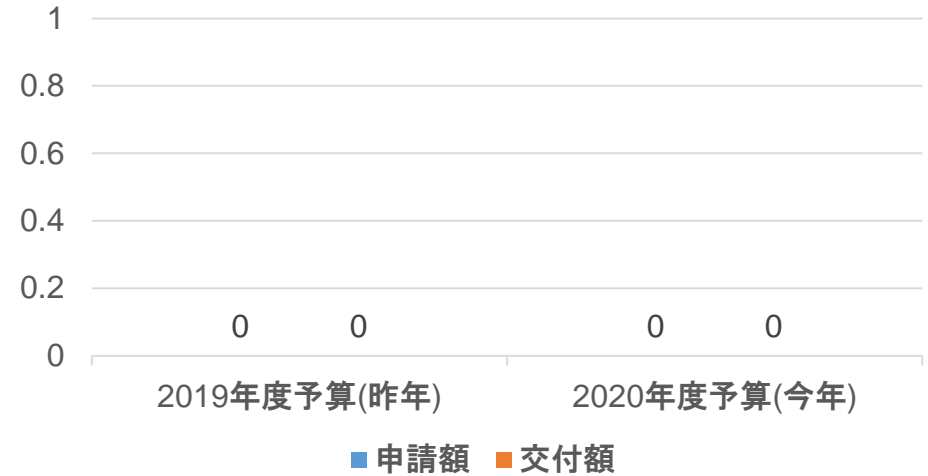
2019年度決定 交付額

0円
(±0円)

昨年と
変わらず



交付額推移



塾生代表所感

0円の申請額に対し、昨年と同様0円の交付金額とした。
 年間の活動内容は非常に活発であり、慶應義塾大学に大いなる貢献をしていると判断した。
 提出決算書類の監査報告を踏まえても、大きな懸念点はなく健全な財務体制であると認識した。
 全塾ゼミナール委員会は、全塾協議会からの交付金配分なしに、独自財源会計で運営が行えている
 団体である。

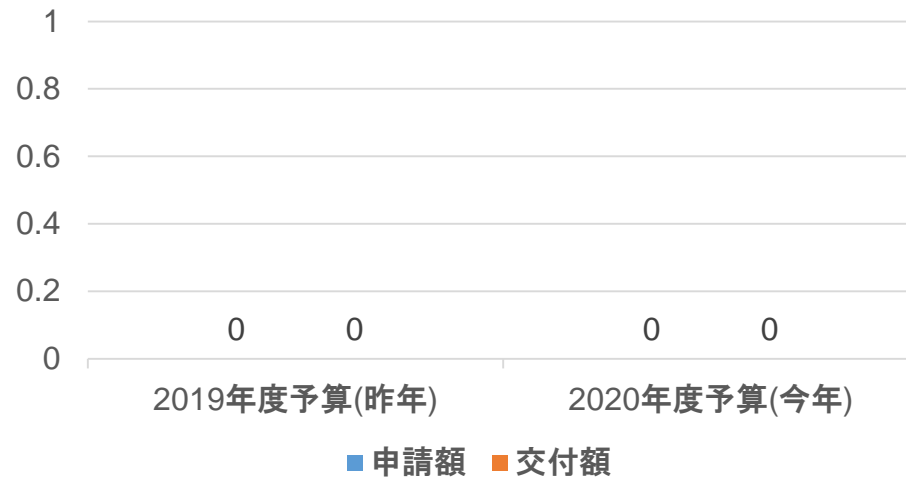
2019年度決定 交付額

0円
(±0円)

昨年と
変わらず



交付額推移



塾生代表所感

0円の申請額に対し、昨年と同様0円の交付金額とした。
年間の活動内容は非常に活発であり、慶應義塾大学に大いなる貢献をしていると判断した。
提出決算書類の監査報告を踏まえても、大きな懸念点はなく健全な財務体制であると認識した。
文学部社会学ゼミナール委員会は、全塾協議会からの交付金配分なしに、独自財源会計で運営が行
えている団体である。

全塾ゼミナール委員会傘下 文学部人間科学ゼミナール委員会

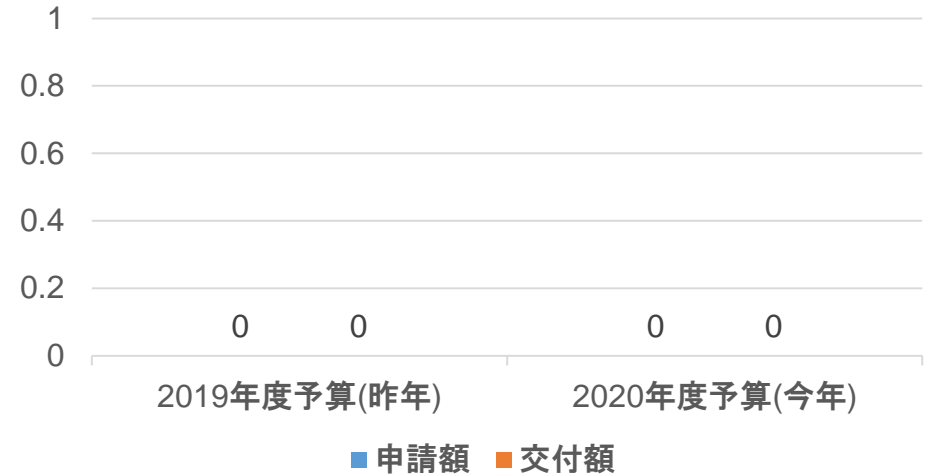
2019年度決定 交付額

0円
(±0円)

昨年と
変わらず



交付額推移



塾生代表所感

0円の申請額に対し、昨年と同様0円の交付金額とした。
年間の活動内容は非常に活発であり、慶應義塾大学に大いなる貢献をしていると判断した。
提出決算書類の監査報告を踏まえても、大きな懸念点はなく健全な財務体制であると認識した。
文学部人間科学ゼミナール委員会は、全塾協議会からの交付金配分なしに、独自財源会計で運営が行えている団体である。

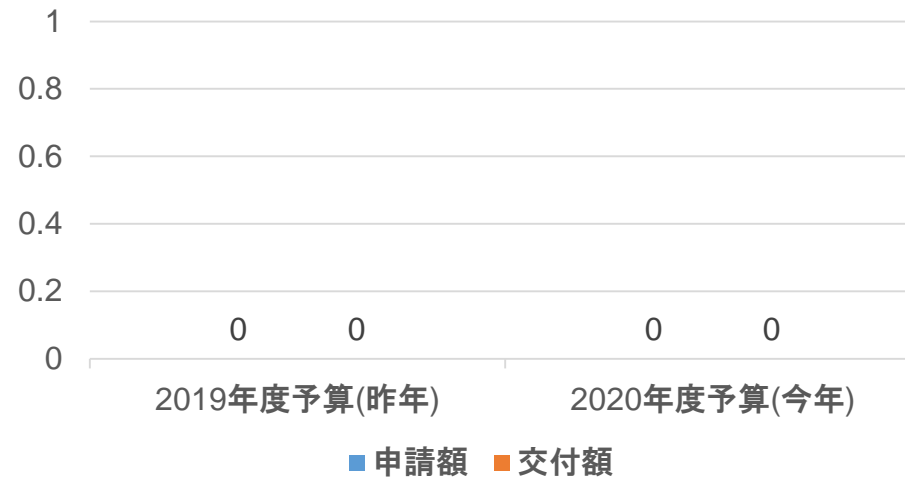
2019年度決定 交付額

0円
(±0円)

昨年と
変わらず



交付額推移



塾生代表所感

0円の申請額に対し、昨年と同様0円の交付金額とした。
 年間の活動内容は非常に活発であり、慶應義塾大学に大いなる貢献をしていると判断した。
 提出決算書類の監査報告を踏まえても、大きな不備はなく健全な財務体制であると認識した。
 経済学部ゼミナール委員会は、全塾協議会からの交付金配分なしに、独自財源会計で運営が行えて
 いる団体である。

全塾ゼミナール委員会傘下 法学部法律学科ゼミナール委員会

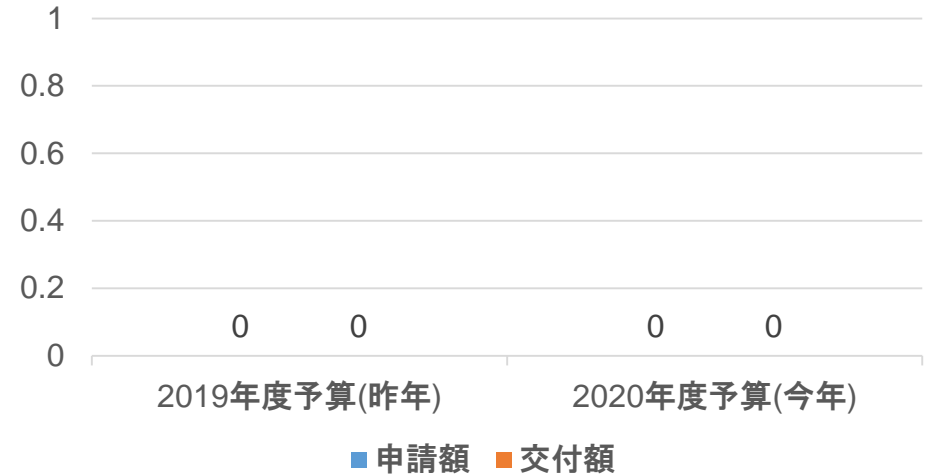
2019年度決定 交付額

0円
(±0円)

昨年と
変わらず



交付額推移



塾生代表所感

0円の申請額に対し、昨年と同様0円の交付金額とした。
年間の活動内容は非常に活発であり、慶應義塾大学に大いなる貢献をしていると判断した。
提出決算書類の監査報告を踏まえても、大きな不備はなく健全な財務体制であると認識した。
法学部法律学科ゼミナール委員会は、全塾協議会からの交付金配分なしに、独自財源会計で運営が行えている団体である。

全塾ゼミナール委員会傘下 法学部政治学科ゼミナール委員会

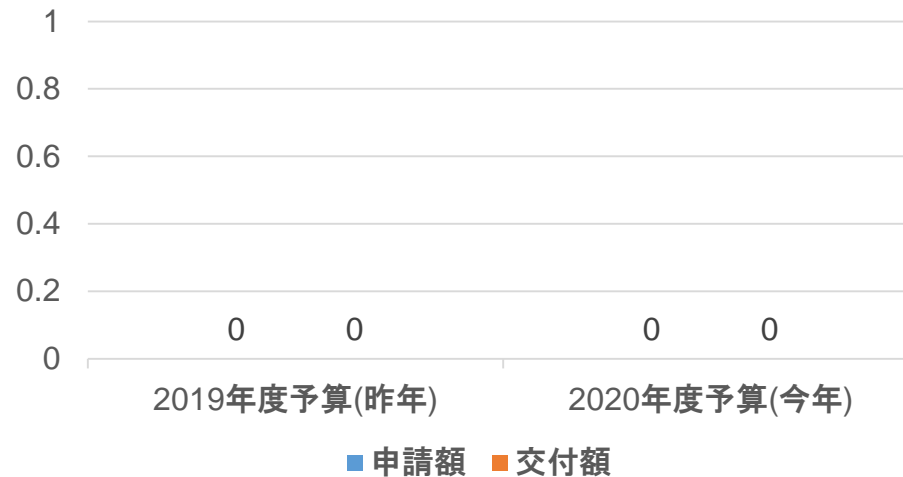
2019年度決定 交付額

0円
(±0円)

昨年と
変わらず

2019年申請額
0円

交付額推移



塾生代表所感

0円の申請額に対し、昨年と同様0円の交付金額とした。
年間の活動内容は非常に活発であり、慶應義塾大学に大いなる貢献をしていると判断した。
提出決算書類の監査報告を踏まえても、大きな不備はなく健全な財務体制であると認識した。
法学部政治学科ゼミナール委員会は、全塾協議会からの交付金配分なしに、独自財源会計で運営が行えている団体である。

全塾ゼミナール委員会傘下 商学部ゼミナール委員会

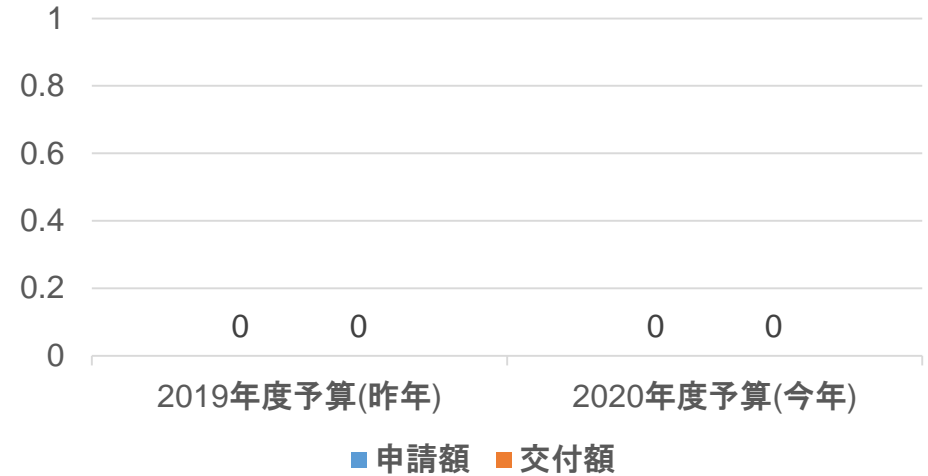
2019年度決定 交付額

0円
(±0円)

昨年と
変わらず



交付額推移



塾生代表所感

0円の申請額に対し、昨年と同様0円の交付金額とした。
年間の活動内容は非常に活発であり、慶應義塾大学に大いなる貢献をしていると判断した。
提出決算書類の監査報告を踏まえても、大きな不備はなく健全な財務体制であると認識した。
商学部ゼミナール委員会は、全塾協議会からの交付金配分なしに、独自財源会計で運営が行えている団体である。

2019年度決定 交付額

2046500円

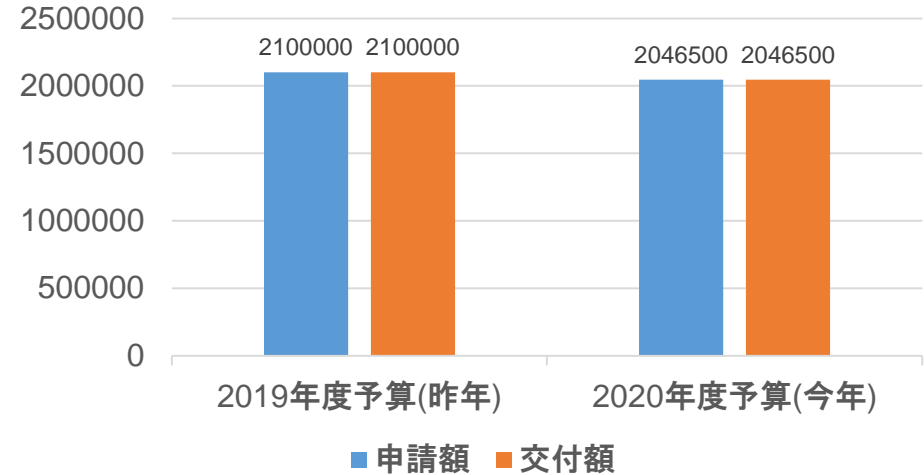
(-53500円)

満額
交付

昨年より
減少

2019年申請額
2046500円

交付額推移



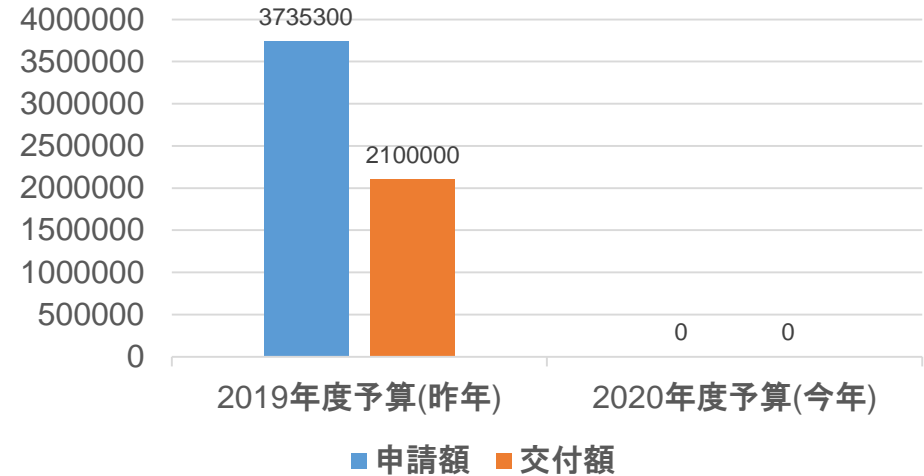
塾生代表所感

2046500円の申請額に対し、2046500円の満額交付とした。
提出された決算書類は丁寧なものであり、財務体制が健全だと判断した。
交付金使用内容が透明であり、交付金使用の意味も十分理解していると判断した。
新しい企画にも使用してもらうため、満額交付とした。

2019年度決定 交付額

保留

交付額推移



塾生代表所感

交付額を2019年9月30日時点では保留としている。
 2019年8月29~31日のリーダーズキャンプでは2018年度決算書類未提出状態であった。
 9月27日のリーダーズキャンプにおいても提出された2018年度決算書類の収支に不一致が見られたため、2019年度決定交付金を決められる状況にないと判断した。
 今後は、全塾協議会事務局から2018年度決算書類に透明性があると監査報告を受け次第、交付金額の決定を行う。尚、予想されうる申請額分(例年約200万円程度)の配分額は残している。
 提出書類の遅延や不備を減らしていくことで全塾協議会事務局や他の上部七団体議員の負担の軽減に所属団体の皆様と一緒に取り組みたい。

2019年度決定 交付額

750000円

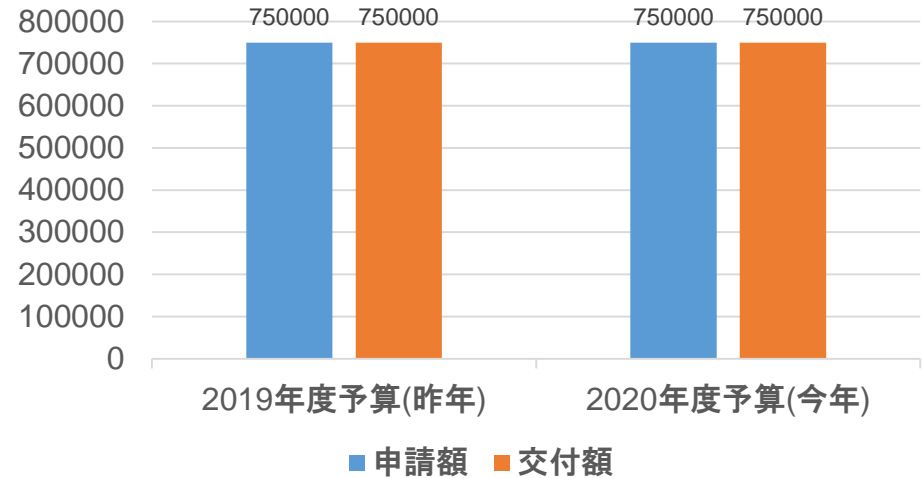
(±0円)

満額
交付

昨年と
変わらず

2019年申請額
750000円

交付額推移



塾生代表所感

750000円の申請額に対し、750000円の満額交付とした。
財務管理が健全であり、活動内容の公益性が高いと判断した。
繰越金も使用していく方針であるため、満額交付とした。

2019年度決定 交付額

2400000円

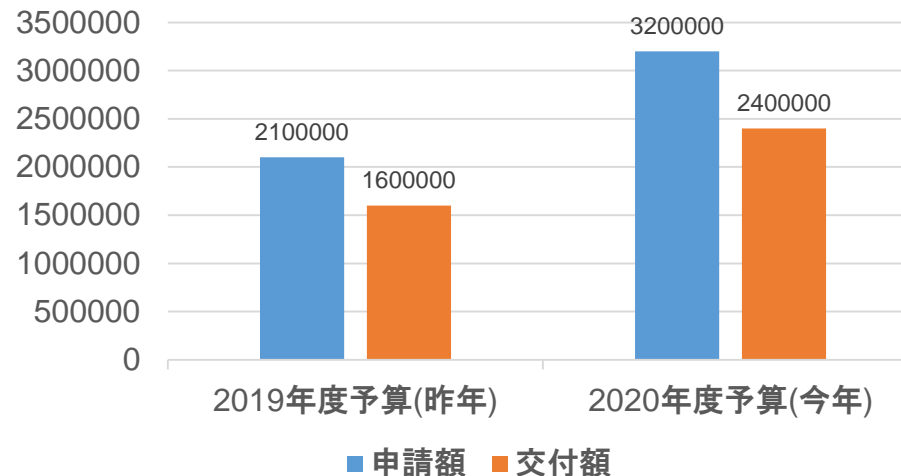
※うち芝共薬祭実行委員会に700000円

(+800000円)

昨年より
増加

2019年申請額
3200000円

交付額推移



塾生代表所感

3200000円の申請額に対し、2400000円の交付とした。

芝共薬祭を存続させるため増額が必要と判断した。

決算書類に不透明な点が多く、特に芝共薬祭の用途計画が不透明であることは問題であると認識した。

芝共薬祭について、保護者会がスポンサーとなっていて行っている弊害として、実施の意義やプライオリティが不明であると判断した。

また、協賛金の獲得により、一層力を注げると判断した。

以上を踏まえ昨年から80万円の増額交付としたが、うち10万円は繰越金を増やしていただくための増額である。

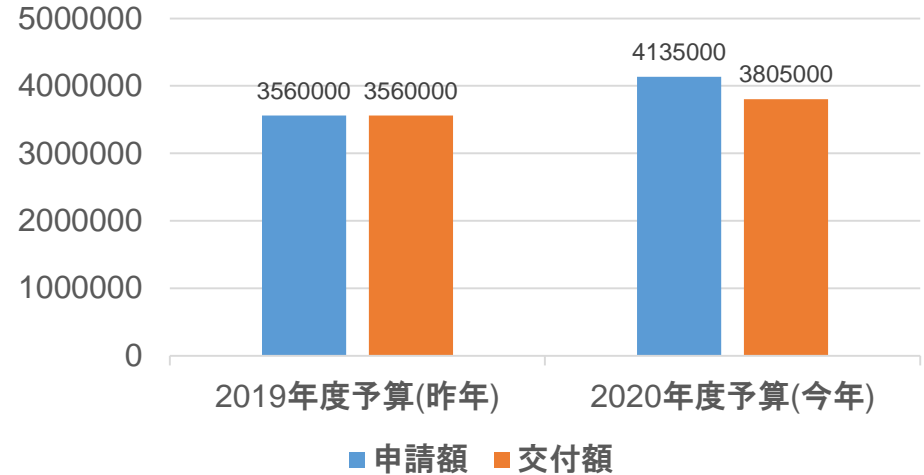
2019年度決定 交付額

3805000円
(+245000円)

昨年より
増加

2019年申請額
4135000円

交付額推移



塾生代表所感

4135000円の申請額に対し、3805000円の交付とした。
 提出された決算書類は丁寧なものであり、財務体制が健全だと判断した。
 塾生代表選挙のはがき廃止に伴って生じる交付金余剰を還元できていると判断した。
 一方、塾生代表選挙において「慶早戦の活発化」を公約に掲げた候補者が落選し、塾生間の格差縮小を掲げた候補者が当選したため、そういった声を反映させる必要があると判断した。
 塾生代表選挙のはがき廃止に伴って生じる交付金余剰の還元について、一所属団体当たり25万円が限度であると判断した。
 以上を踏まえ、申請額よりは少ないが昨年よりは増額できているため、245000円の増額とした。

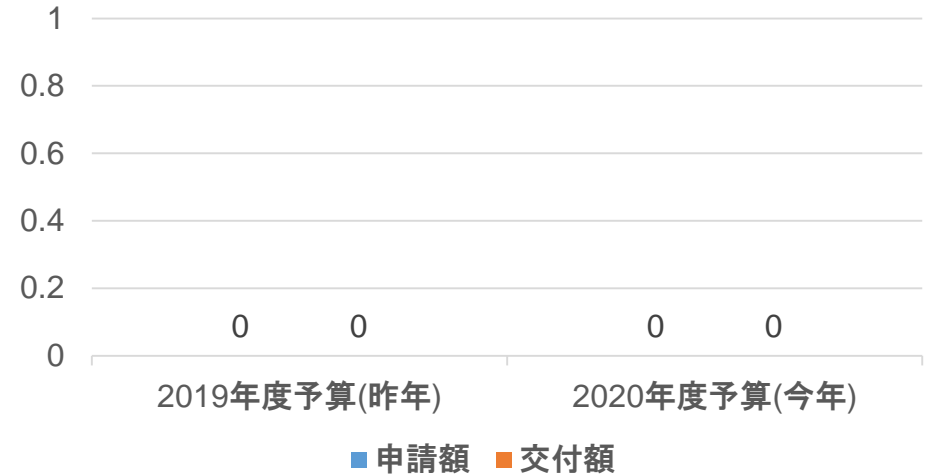
2019年度決定 交付額

0円
(±0円)

昨年と
変わらず



交付額推移



塾生代表所感

0円の申請額に対し、昨年と同様0円の交付金額とした。
 年間の活動内容は非常に活発であり、慶應義塾大学に大いなる貢献をしていると判断した。
 財務状況に不透明な点があり、問題もあると認識した。
 共済部は、近年全塾協議会からの交付金配分はないものの、以前受け取っていた交付金の残額を毎年利用している団体である。

2019年度決定 交付額

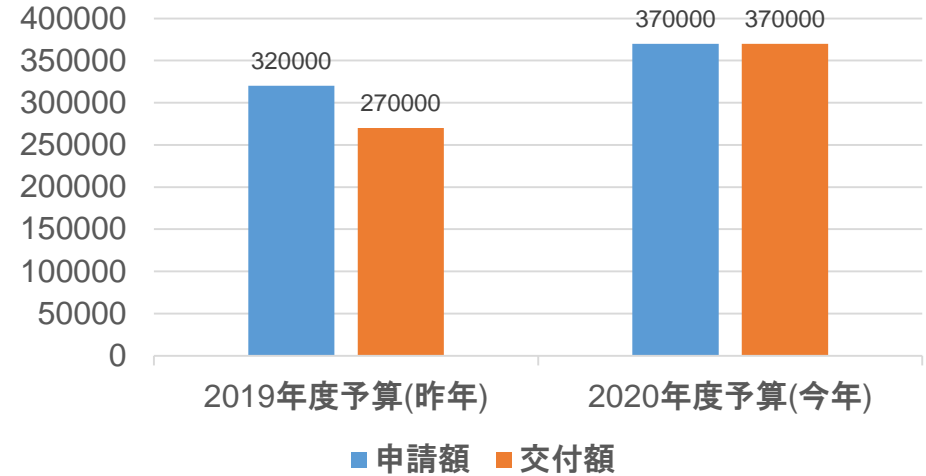
370000円
(+100000円)

満額
交付

昨年より
増加

2019年申請額
370000円

交付額推移



塾生代表所感

370000円の申請額に対し、370000円の満額交付とした。
提出された決算書類の監査結果で減点が少なく、財務状況が明確であると判断した。
交付金の使用理由や増額理由が妥当であると判断した。
慶早戦は慶應のアイコンであるため、370000円の満額交付とした。

2019年度決定 交付額

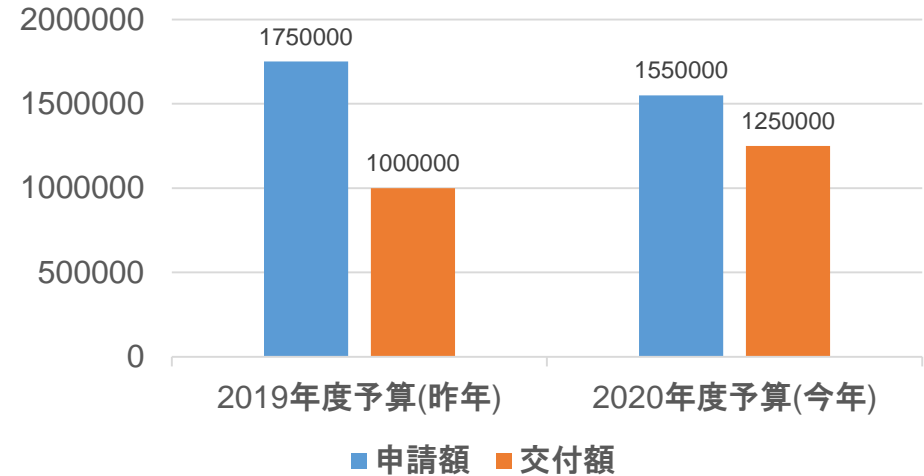
1250000円

(+250000円)

昨年より
増加

2019年申請額
1550000円

交付額推移



塾生代表所感

1550000円の申請額に対し、1250000円の交付とした。
 活動内容が特定の塾生に大きく貢献しており、魅力的かつアクティブなものであると判断した。
 一方、団体の統制に問題があり、塾生代表選挙運営のボランティアなどによる全塾協議会への貢献度も低いと判断した。
 財務管理に関して、交通費の処理に不明点が多いと判断した。
 全塾生が関わられるようなイベントをぜひやっていただきたいため、昨年度から250000円の増額とした。

2019年度決定 交付額

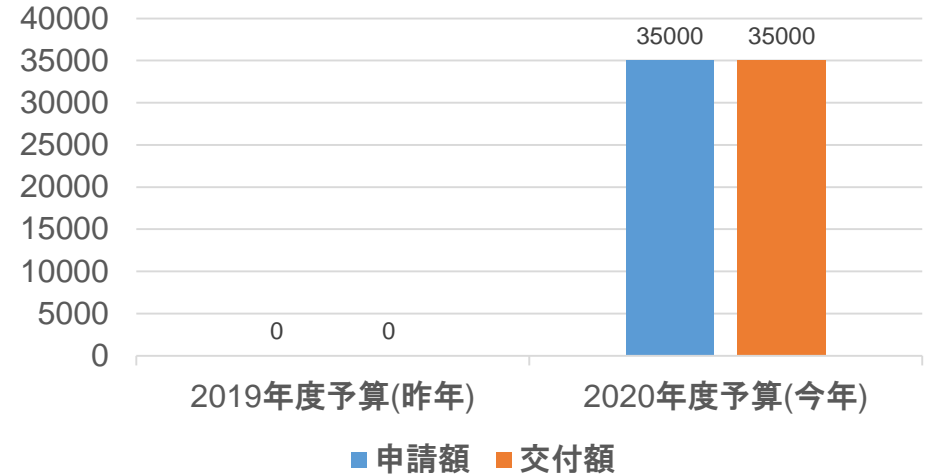
35000円
(+35000円)

満額
交付

昨年より
増加

2019年申請額
35000円

交付額推移



塾生代表所感

35000円の申請額に対し、35000円の満額交付とした。

必要十分な交付額であると判断した。

財務の健全化の努力、申請額が少ないなどの理由で妥当と判断した。

一方で、財務状況は良くはなかったことや、独自財源の導入をするべきであるということも考慮した。

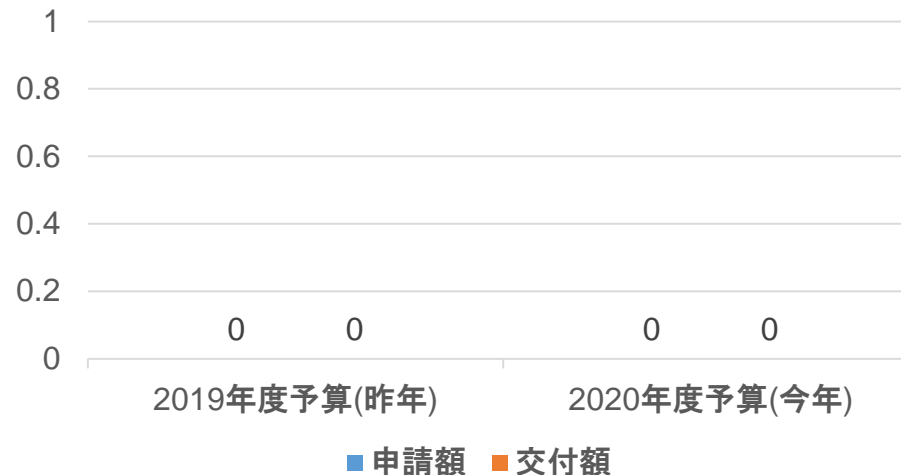
2019年度決定 交付額

0円
(±0円)

昨年と
変わらず



交付額推移



塾生代表所感

0円の申請額に対し、昨年と同様0円の交付金額とした。
 年間の活動内容は非常に活発であり、慶應義塾大学に大いなる貢献をしていると判断した。
 提出決算書類の監査報告を踏まえても、大きな不備はなく健全な財務体制であると認識した。
 オリエンテーション委員会は、全塾協議会からの交付金配分なしに、独自財源会計で運営が行えて
 いる団体である。

2019年度決定 交付額

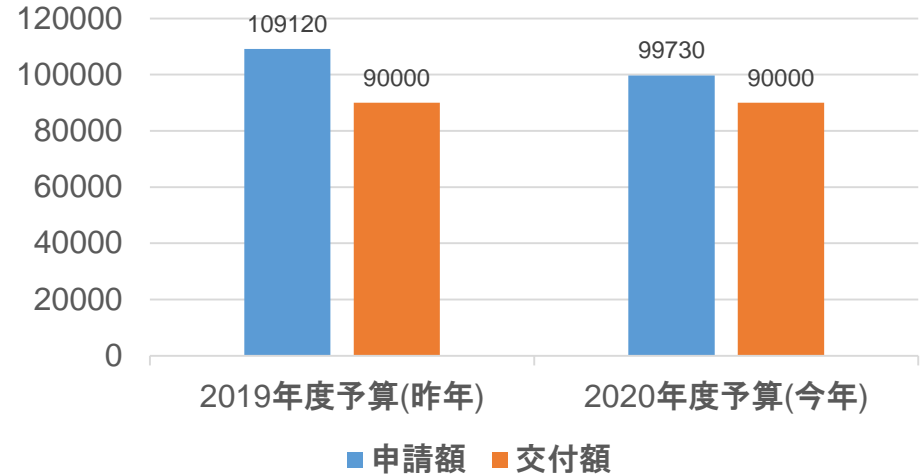
90000円

(±0円)

昨年と
変わらず

2019年申請額
99730円

交付額推移



塾生代表所感

99730円の申請額に対し、90000円の交付とした。
提出された決算書類は丁寧であり、輪転機購入のための積み立てに意義はあると判断した。
予算審議会(リーダーズキャンプ)への出席連絡に不手際があり、独自財源の繰越金が多かった。日頃の活動があまり明確でなく、広報に力を入れるべきと認識した。
やる気の維持のために過度な減額はすべきではないと考えた。

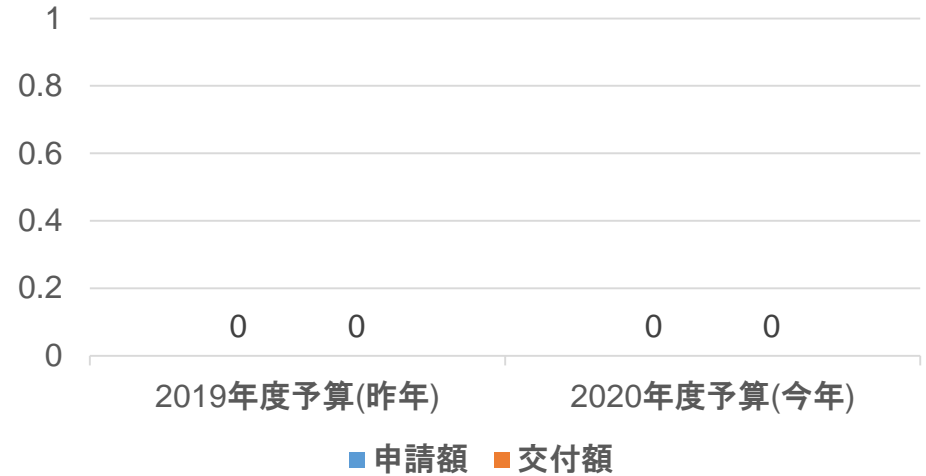
2019年度決定 交付額

0円
(±0円)

昨年と
変わらず



交付額推移



塾生代表所感

0円の申請額に対し、昨年と同様0円の交付金額とした。
年間の活動内容は非常に活発であり、慶應義塾大学に大いなる貢献をしていると判断した。
財務状況に不透明な点があり、問題もあると認識した。
卒業アルバム委員会は、全塾協議会からの交付金配分なしに、独自財源会計で運営が行えている団体である。

2019年度決定 交付額

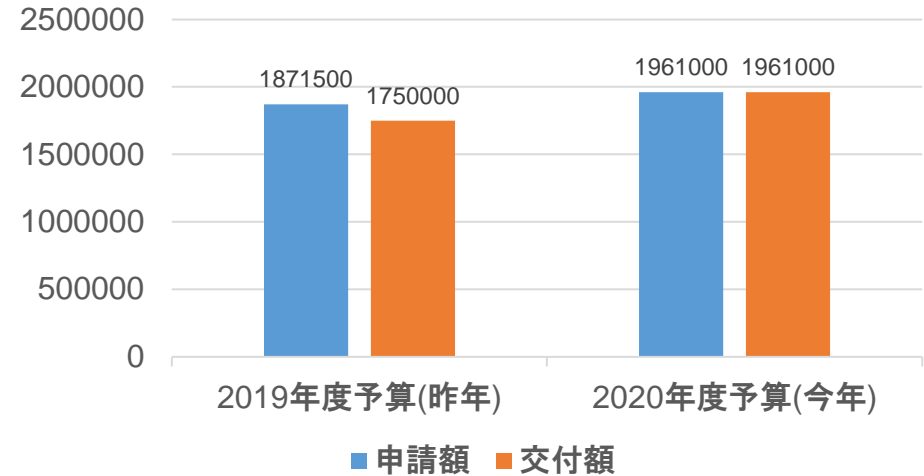
1961000円
(+211000円)

満額
交付

昨年より
増加

2019年申請額
1961000円

交付額推移



塾生代表所感

1961000円の申請額に対し、1961000円の満額交付とした。

提出された決算書類は極めて丁寧であった。

使用用途が明確であると判断した。

ステージ代の値上げと保険料を2年分支払わなければならないなど、増額理由が合理的であると判断した。

2019年度決定 交付額

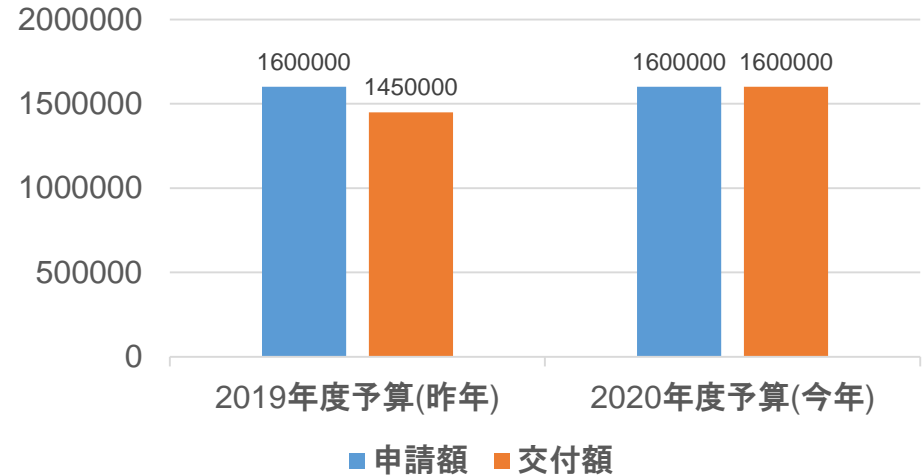
1600000円
(+150000円)

満額
交付

昨年より
増加

2019年申請額
1600000円

交付額推移



塾生代表所感

1600000円の申請額に対し、1600000円の満額交付とした。
決算書類の不備は悪質ではなく、減額措置をとる必要はないと判断した。
一方で、繰越金が多いことや、決算書類の提出が遅延したことは問題であることも認識した。
使用目的が明確である、20回目の開催である、地域性に根差している、企画が面白いという理由で満額交付とした。

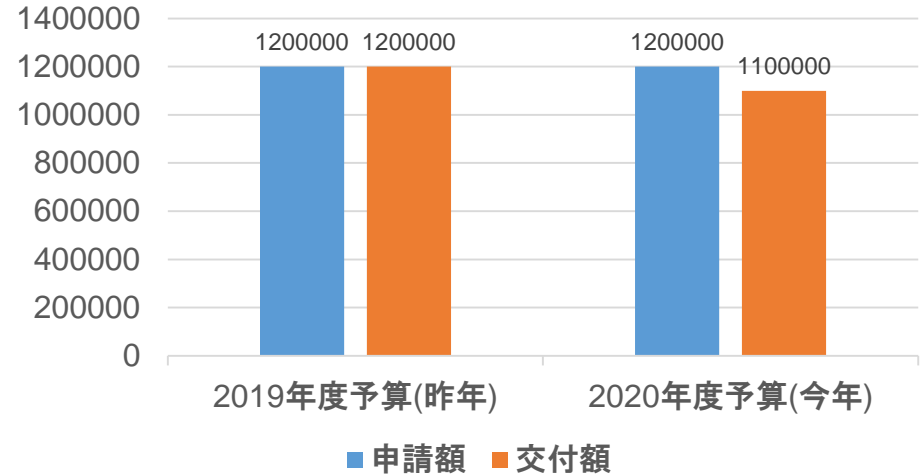
2019年度決定 交付額

1100000円
(-100000円)

昨年より
減少

2019年申請額
1200000円

交付額推移



塾生代表所感

1200000円の申請額に対し、1100000円の交付とした。
企画内容が医学部のオープンキャンパスや子供たちのためと明確であると判断した。
企画数が少ない、ステージ費が規模に比べて高い、グッズ費や新歓食事代などの無駄と思われる独自財源の使用が目立っている、スポンサー集めに努力していない、という理由で100000円減額とした。

2019年度決定 交付額

800000円

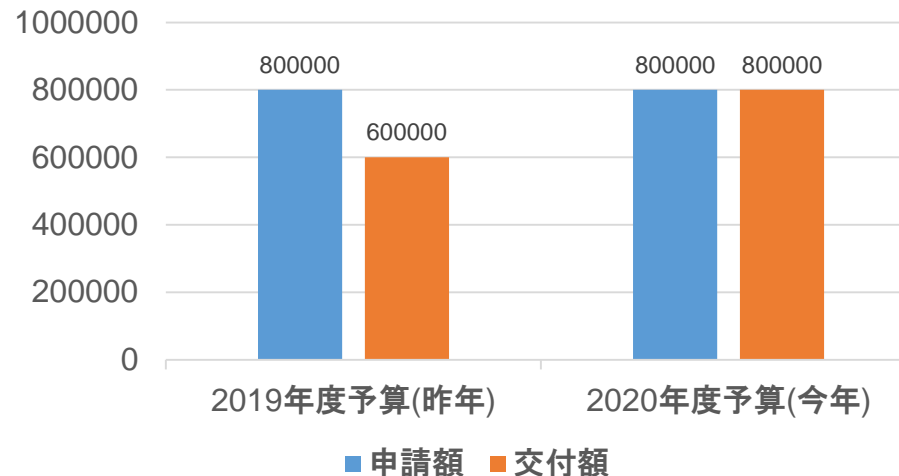
(+200000円)

満額
交付

昨年より
増加

2019年申請額
800000円

交付額推移



塾生代表所感

800000円の申請額に対し、800000円の満額交付とした。
3年前の財務状況の失態が健全化したという印象を与えかねないために5万円程度の減額することも検討したが、そうした責任が現任の委員に押し付けられることが続いてしまうことも考慮し、30回目の秋祭に向けた活動を盛り上げたいという意思を尊重したため満額交付とした。

2019年度決定 交付額

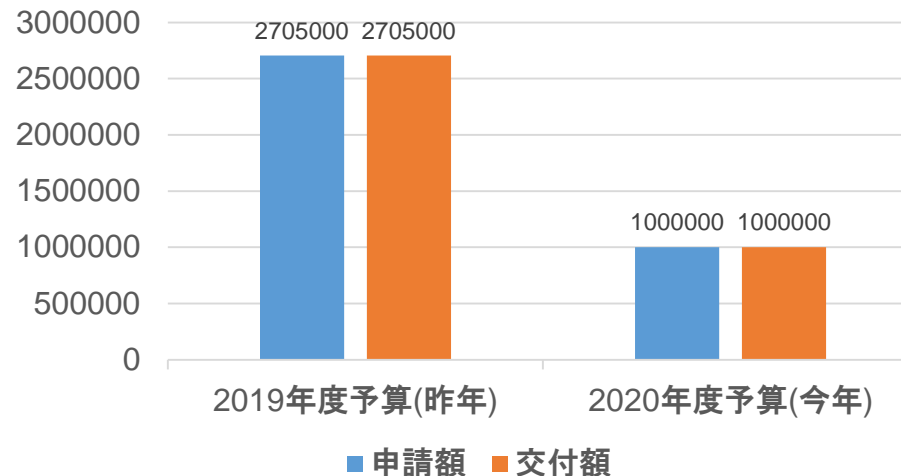
1000000円
(-1705000円)

満額
交付

昨年より
減少

2019年申請額
1000000円

交付額推移



塾生代表所感

1000000円の申請額に対し、1000000円の満額交付とした。
この交付額であれば、塾生代表の公約3達成度は十分であると判断した。
はがきの廃止は初めてであり、保険の意味も併せて多少多めの交付額とした。
丁寧に使用して頂き、余剰分は繰越金にあてるように促した。

2019年度決定 交付額

800000円

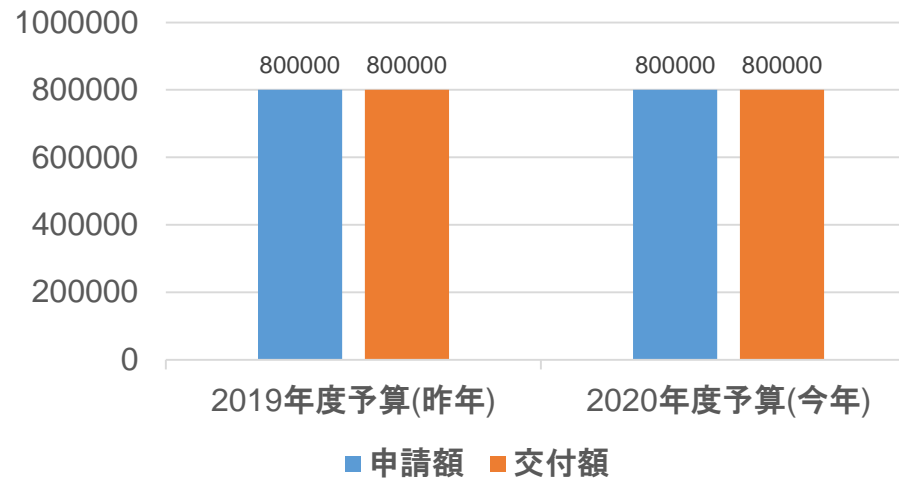
(±0円)

満額
交付

昨年と
変わらず

2019年申請額
800000円

交付額推移



塾生代表所感

800000円の申請額に対し、800000円の満額交付とした。
使用用途が明確であり、活動の公益性が高いと判断した。
繰越金の積み立てに向けて動いていけるようにと促した。

塾生代表前田じん 公約達成状況(10/1現在)

公約①「不祥事から塾生を守る党」

実行中 2019年7月31日の塾生代表就任以降、現役慶應生が逮捕される不祥事は確認されていない。また2019年7月下旬に慶應生が逮捕された不祥事を受けて、献血400mlを行った。塾生代表自ら若き血を捧げていくことで、引き続き塾生の節度ある学校生活を願う。

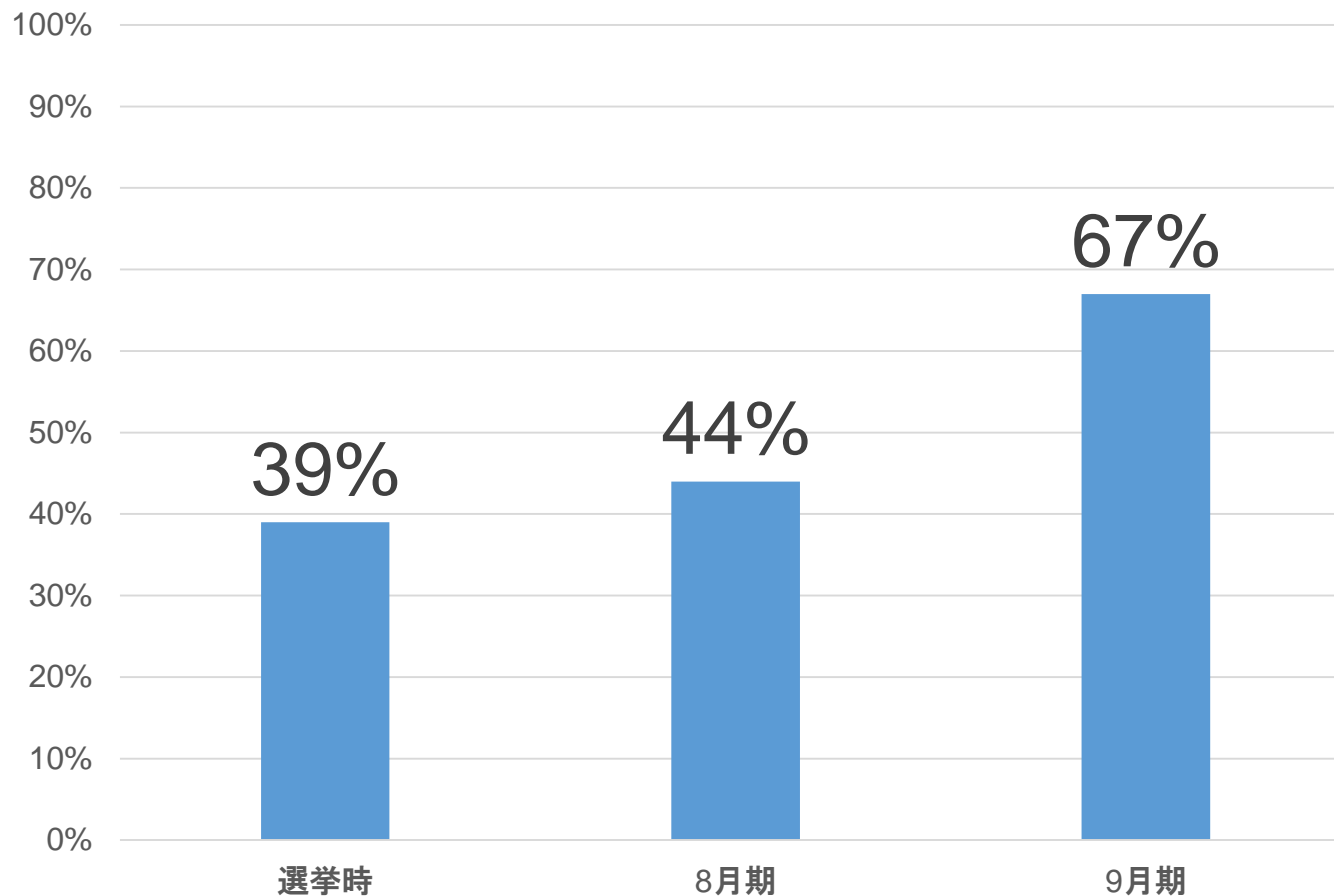
公約②「塾生代表選挙の公選制の廃止、指名制への移行」

不達成 2019年8月22日の全塾協議会臨時会にて、次回以降の塾生代表選挙を塾生からの直接投票制から議員での指名制に移行するための規約改正案を塾生代表前田が提出した。結果は賛成3人・反対4人で全会一致とはならず否決となった。主な否決理由としては「公選制の排除へのリスク」「学生部の自治会費代理徴収制廃止の危惧」などがあげられた。この結果、2019年12月を目途に「2020年度塾生代表選挙」が塾生の直接投票制にて行われることが決定した。

公約③「塾生代表選挙のハガキ制度の廃止、塾内交付金格差を是正し学内イベントの参加者増加」

概ね達成 2019年8月22日の全塾協議会臨時会にて、選挙のハガキ郵送制度の廃止が議員と塾生代表の間で一致し、今後はSNSを通じた選挙広報を行っていく方針となった。2019年8月31日の全塾協議会リーダーズキャンプにて、選挙管理委員会の交付金を約270万円から100万円に削減した。ハガキ代にかかっていた約210万を削減し、約40万を塾生代表選挙のSNS広報費用、残りの約170万を各学生団体の交付金に還元配分した。この結果、2020年度予算は数多くの学生団体が交付金を申請額通りまたは例年よりupして受給出来ることとなり、例年起きている団体間の塾内交付金格差問題の是正に貢献した。

塾生代表前田じん 支持率 (10/1現在)



引用：選挙管理委員会公式HP